高校阿倍野新聞

発行所
大阪府立阿倍野高校
新聞部

新システム却下

――執行委員制度――

自治会執行部（以下執行部と略す）は三学期に行なわれる選挙にあたって執行委員制度というものを提案しました。というのは毎回執行部の役員選挙に際して立候補者がいないという大きな問題がもち上がっているからである。

執行委員制度とは、各クラスから新しく執行委員二名を選出し、その中から自治会会長・副会長・書記・会計、各一名ずつ互選することである。この制度になると大きな問題となっていた立候補者不足のための執行部不成立ということはなくなる。

現在までの経過としては、夏休みに会則検討委員会を設置し、自治会会長を中心に委員会で会則の条項を検討した。そして吟味を重ねた後、議会へ提出した。議会を通ったのに後、自治会の顧問に提出したのだが却下された。

もしここで顧問を通れば、臨時に生徒集会を開き、全校生徒の三分の二以上の賛成を得る。というように改正（この点については生徒手帳十七ページ第十五章第五十三条を参照）が行なわれるべき定であった。

その結果、執行委員制が実施され、今後の選挙では立候補者不足のための執行部不成立というのはなくなるはずであった。

だが執行委員制というのは生徒の自主性が軽視され半強制的に執行部が成立するのである。果たしてそれを生徒の意見が本当に反映されるのだろうか。一部の執行部の役員に任せっきりで自分は関係ないという生徒が多い。一般生徒がもう少し自治会活動にヤル気を出せば、この問題は解決するのではないだろうか。

就職

「アルバイト」という言葉を冬休みを前によく耳にする。休みを利用してアルバイトをしようと考えている人も多いだろう。

アルバイトの目的は単に小遣いを得るためという人が大半だ。けれども経験を積むに従い、働くことの意義、お金の大切さを知ることもある。

だが、アルバイトで良いことを吸収するかしないかは、本人の心がけしだいといえよう。学校側でアルバイトを原則として認めていないことから考えても、少々不安はぬぐりとは決していえない。本人があまさぶやな気持ちでアルバイトをはじめると前にあげた利点が欠点になってしまう。社会の悪い環境に染まってしまったり、お金の尊さを知らないとされている。しかし、ただ自分の小遣いを得るためだけであったとしても、責任を持って取り組むのならそれを先生にはっきり言えばよい。学校側もアルバイトをただ許可しないだけでなく、生徒が頭のすぬかしらぬけだす第一歩としてこの見直しをはどうだろう。

心構えが大切

どこかで、無駄使いに拍車をかけるようではいけない。

それでも、経済的理由のある人は、止むを得ない。

本と友達に

近ごろ世間では「高校生の活字離れ」が盛んに言われているようだ。そして、高校生が読書を嫌う理由として、一般に「堅苦しい」「時間がない」などがあげられている。しかし、高校生のすべてのこともあるまい。

「三度の食事よりも本が好きっ」という読書好きもいる。

では、読書嫌いが多いのは何故だろうか。その人達は、どうも読書は窮屈なものと、考え過ぎているように思われる。もっと気楽に考えてもいいのではないだろうか。

「本を読むこと」ということは、「本と友達になる」ということ。本が嫌いな人は、手始めに自分の好きなジャンルの本を読んでみるのがいいだろう。そして、少しずつでも読書の輪を広げていこう。

この冬の読書の参考に教科書の本をあげておく。

・「二十歳の原点」　高野　悦子
・「きまぐれロボット」　星　新一
・「人形の家」イプセン
・「ライ麦畑でつかまえて」　サリンジャー
・「どくとるマンボウ航海記」　北　杜夫
・「復活の日」小松左京

針の穴

冬休みが終り、明日からは待望の冬休みが始まる。しかし休みというものは、往々にして計画倒れになりがちである▼この冬休みは三年生にとって、受験を控えての追い込みの時期であり、他の生徒にとっては一学期の成績を挽回し返す唯一のチャンスであろう▼このように冬休みは三学期への重要な準備期間であり、ひいては進級にもつながるのである。なのに何故無駄にする者が多いのだろうか▼理由としては、自分に対しての甘さや正月の気の緩みが挙げられる。いくら自分でこうやろう、ああやろうと計画を立てても、なかなか思うようにはいかないのが事実である▼「今年の冬休みこそは!!」と自分に甘えず気を引き締めれば、計画倒れに終わることもない。やるべきことを済ませておけば、一段と楽しいお正月を迎えることができるだ▼人生は一度限りだ。日頃無駄に過ごしている時間をもう少し見直す必要がありそうだ。

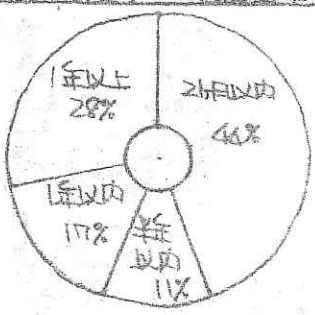
異性への関心

アンケート調査結果

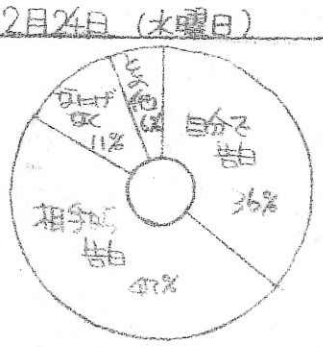
我々校においての男女交際の実状を知るため、一、二年生を対象にアンケートを行った。としてとの結果を簡単にまとめてみた。

解答者全体の12%が阿倍高の生徒とつきあっている。とのうち9%が同学年同士である。残りはグラフ参照。

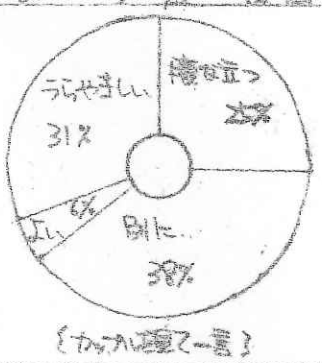
「つきあうことが悪いの傷げにするな」という質問に対して、つきあっている人も、とうでない人も「いいえ」と答えた人が80%ほどと多かった。



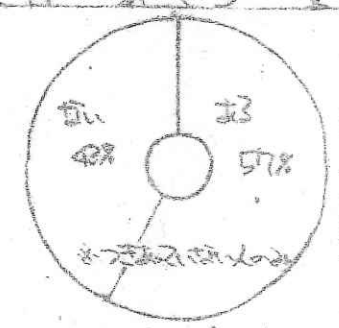
〔つき合ってどん位か〕



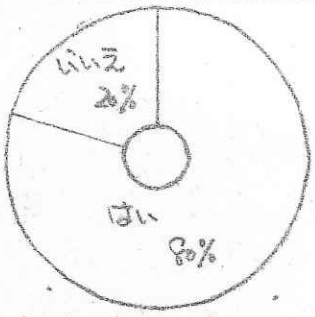
〔きっかけ〕



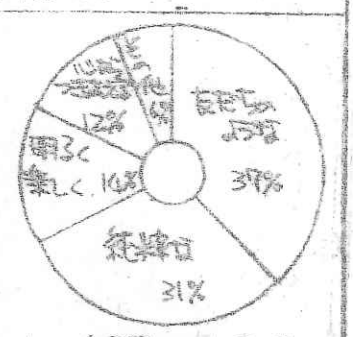
〔かっかは憧れ一言〕



〔つきあうつもりは？〕



〔結婚は成立しますか？〕



〔理想のつきあい方は？〕

つきあっていくうちにいくつか問題が出てくるかもしれない、が、負けずに頑張って青春の一ページを飾って下さい。相手のいない方、あせらず健重にどうぞ。

イヴによせて

―エッセイ―

明日は楽しみなクリスマス。デパートのショーウィンドウが、色とりどりに飾られ、又ちこちならジングル・ベルが聞こえてきます。

サンタクロースが本当にやってくると信じていた頃は、イヴにはなかなか寝つれなかったものです。明日の朝、どんなプレゼントが届いているかと思うと、不安な胸がわくわくしました。とんなる子供たちに夢を与えてくれる、やさしいサンタのおじさんの話は、いろいろな国に伝わっています。中には、せっかちにもイヴよりず、と早く来るという地方もあるとか。このサンタさんは、贈り物も少し変わっていて、良い子にはプレゼント、悪い子には小枝を持ってくるんです。て……。クリスマスの朝、目ざとい人は、枕もとに小枝があった……なんていませんか？

クリスマスにちなんだ風習は、たくさんあります。カードの交換もとのひとつですね。友達同士で、プレゼントといっしょに交換しあったり、また、中には恋人同士で……なんて人もいるかもしれませんね。

陸上部記録に期待

―陸上部―

冬は体力作りの季節である。とこで今回のクラブスポットは陸上部をとりあげて、三年生を中心に毎日活動している。

十一月十五日には陸上公園で駅伝があり、中・長距離の七人が参加した。日頃の成果にションの練習日数を入れている。

陸上の木下先生のお話では「陸上は決して華やかなスポーツではない。が、自分に負けない様にと常々部員達に言っている」とのことである。難しいけれど面白い競事の下、「新記録も期待できそう」だ。

十二月二十七日には陸上公園で、奈良公園まで（男子十五キロ、女子はとの半分）のマラソンがあるとうだ。体力に自信のある人、参加してはいかが？

は、はなから、だめ、奉年一月中旬に行なわれる奈良駅伝には！と練習を重ねている。陸上部とフィールドは現在、オフなので、コンディションを整えるめてはないでしょうか。市販のカードを送るのもいいけど、手作りのものを送ってみるのはどうでしょう？自分なりにアイデアを生かして、絵の具やクレヨンでちょっとした絵を書いてみてはこうまく書けなくても、心こもっていれば、とすばらしいものができると思いますよ。今年はちょっぴり勇気を出して、あこがれのあの人にもクリスマス・カードを送ってみては？

編集後記

なんだかんだ言っているうちに、今年も残すところあと、わずかになりましたね。お正月を楽しく過ごせるよう、編集は早めに書きたい。三年生にとっては強い込みの時期です。でも、風邪などをないよう健康管理にも努めて下さいね。それでは、三学期に元気な顔で会いましょう。